

第 69 回 日本生殖医学会 学術講演会

P-291

愛知 2024. 11. 14-15

医学的卵子凍結保存の治療成績は社会的卵子凍結の成績と同等である

幸池明希子¹、宮本有希¹、佐藤学^{1,2}、森本義晴¹

¹医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

²医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】近年、がん治療前に生殖補助医療実施機関との連携により妊孕性温存治療についての選択肢ができるようになってきた。また、女性の晩婚化などにより卵子凍結を選択する女性が増加してきている。当院でもがん治療前の医学的卵子凍結と社会的卵子凍結の両方を実施している。今回、凍結卵子融解後に ART 治療をした成績について検討した。

【方法】2015 年 9 月から 2023 年 12 月までに妊孕性温存を目的として凍結した医学的卵子（106 症例 130 周期）と将来の妊孕性温存を目的とした社会的卵子（219 症例 323 周期）の融解後の ART 成績について後方視的に検討を行った。

【結果】医学的凍結卵子の融解率は 3.8% (4/106)、社会的凍結卵子の融解率は 5.5% (12/219) であった。医学的凍結卵子と社会的卵子の凍結時の平均年齢は (32.3±0.7 歳 vs 38.4±0.2 歳、 $P<0.05$)、個数あたりの融解生存率は (83.7% vs 87.5%、 $p=0.54$)、平均凍結日数は (1148 日 vs 775 日、 $P=0.37$) で差は認められなかった。医学的凍結卵子由来胚での妊娠例は 2 症例で、凍結卵子を融解後、顕微授精を実施後に胚凍結し、HRC 周期で移植後に妊娠した。社会的凍結卵子由来胚での融解胚移植は 12 症例 23 周期、妊娠率は 30.4% (7/23) であった。医学的卵子凍結および社会的卵子凍結由来胚で出生した 6 児はともに先天異常は認められなかった。

【結論】妊孕性温存のために卵子を凍結した AYA 世代、特に未婚女性の卵子凍結の場合は、原疾患治療後に ART 治療が開始するまでには長期保存が必要となる。今回、医学的凍結卵子由来胚と社会的凍結卵子由来胚を比較して融解生存率と妊娠率に有意な差がなかったことから、医学的卵子凍結を希望する患者にとって長期凍結保存を実施しても妊娠・出産できるというデータを提供できることが示唆された。